第1回グローカル人材フォーラム
第1部報告・発表
2014.02.28
キャンパスプラザ京都 第3講義室

京都愛からはじまる グローカル人材

京都文教大学総合社会学部
専任講師 黒宮一太
3回生　林佐紀

京都文教大学
総合社会学部総合社会学科
黒宮一太

もう一つのPBL

「エクスターンシップ実習」から「専門ゼミ」へ

もう一つのPBL

「エクスターンシップ実習」から「専門ゼミ」へ

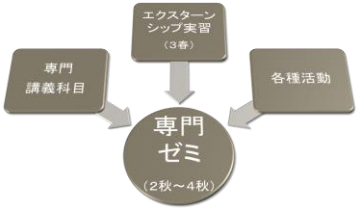
❖いわゆる「PBL」のあと、次なる段階は？

課題1：教育課程の中心となる「専門ゼミ」に、いわゆる「PBL」を
どのように接続させるか？

課題2：いわゆる「PBL」で学生たちが得た活発な学修姿勢を
どのように持続・伸長させるか？

*PBL：企業・行政・地域と連携し、それぞれが抱える実践的な課題にたいして、学生が（チームとなって）主体的に解決策を考案・提案することをとおして、実践的な力を身につけるための学習方法の一つ。

❖専門ゼミの位置づけ



もう一つのPBL

「エクスターンシップ実習」から「専門ゼミ」へ

もう一つのPBL

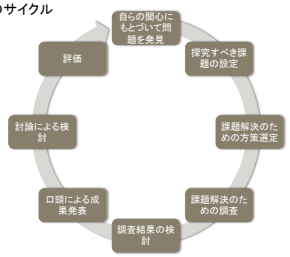
「エクスターンシップ実習」から「専門ゼミ」へ

❖問題（それとも懸念？）は・・・・・・

いわゆる「専門ゼミ」は、いわゆる「PBL」とは
（a）学修の仕方
（b）学修課題の設定のされ方
が異なるとされ、「実践性」に欠けるのでは？

＊僕の専門は「政治思想」「政治哲学」「社会哲学」です。

❖専門ゼミでの研究活動のサイクル



もう一つのPBL

「エクスターンシップ実習」から「専門ゼミ」へ

もう一つのPBL

「エクスターンシップ実習」から「専門ゼミ」へ

❖研究対象とする「解決すべき課題」はどのように設定されるか？

a.専門分野の基礎的学習をつうじて導かれた学術的な問題関心。

b. 学生の実際的な問題関心にもとづくもの。

もう一つのPBL

「エクスターンシップ実習」から「専門ゼミ」へ

❖ゼミ室は実践から隔絶した場所か？

言葉による認識・解釈・表現活動それ自体が実践の場につながっている、と考えておかなければならない。

＊「言葉を積極的に喋る＝濃密な議論」「言葉を積極的に記す＝濃密な執筆」という実践的姿勢への意欲が不可欠。

1. なぜ、“グローカル”を考え始めたのか

一週間後に
卒業論文でとりあげるテーマを
提示してください

最近自分の身に起こった一大イベント…

2013年9月28日の「前期報告会」

→グローカル人材！！

2.なぜ、関心があるのか

グローバル人材とは

飽くなき知的好奇心を持ち、高度で豊かな語学力・コミュニケーション能力や異文化体験を身に付け、国際社会に積極的に関与し貢献するとともに、日本がより豊かで強く、かつ様々な価値観を大切にする国になるための礎となる「人財」。

文部科学省「平成24年度グローバル人材育成推進事業公募要領」

世界に通用する人間であると同時に、**日本**の良さも自覚した上で働くことのできる人材

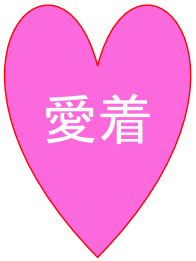
海外に行った人だけがグローバルを意識する時代ではなく、**日本**で仕事をする人こそグローバルな視点を持っていなければならないのではないか

つまり

グローカル人なのでは？？

http://www.jica.go.jp/topics/news/2013/20131010_01.html

3. 京都愛



①私が考える愛着

②なぜ、京都愛が必要なのか

③学生生活で培われる京都愛

①私が考える愛着

“誇り”

自分が誇りを持てるもの
→誇りを持てるように行動してきた

京都は？？
もとからあるもの。良くしよう・発展させようとは思わない。
→当事者となって動くことがない

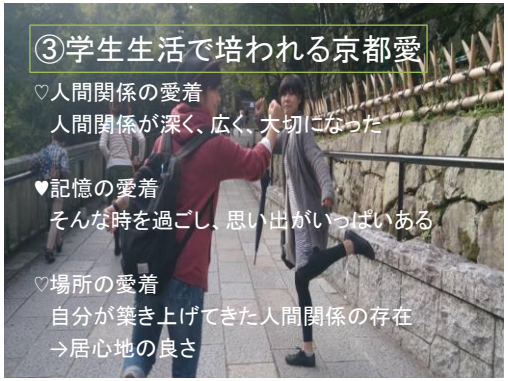
→誇りを持つまでの過程が欠如している

②なぜ、京都愛が必要なのか

・グローカル人が育たないと、京都が廃れていく

・こんな環境の良い地（世界遺産・食べ物…）を京都人が誇らなくて、誰が誇るの？
→グローカル人が守っていかなければならない

・現代はグローバル人が求められているが、グローカル人が求められる時代が来る
→地元愛（京都愛）が必要となる



4.まとめ

良くしたい！！

なぜ、京都へとは向かわないのか？